

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	音楽療育どれみ		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 5日		令和8年 1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	令和8年 1月19日		令和8年 1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	音楽療育を通して、利用児童が楽しみながら参加できる環境を整え、意欲的な活動参加や成功体験の積み重ねにつながっています。	成功体験の課題を設定し、達成感や自己肯定感を得られるよう配慮しています。	個別目標を意識した支援内容の見直しを行い、段階的な活動設定ができています。
2	言語表出が難しい児童に対し、音・リズム・身体表現を用いることで、個々の特性に応じたコミュニケーション支援が行えます。	児童一人ひとりの反応や得意な感覚(聴覚・視覚・身体感覚など)を捉え、活動内容を柔軟に調整しています。	身体表現やリズム活動を通じたコミュニケーション支援と視覚支援(カード・ジェスチャー等)との組み合わせによる理解力を促進しています。
3	音楽活動を取り入れることで、情緒の安定や気持ちの切り替えを目的として、行動面の安定や集団活動の参加の促進につながっています。	活動の導入に音楽やリズムを用いることで、児童の気持ちを落ち着けやすい環境を整えています。	気持ちの切り替えがよりスムーズになるよう、段階的な導入や生活や活動場面との連動をしています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個々の児童の特性や体調によって、音や楽器への過敏さが見られ、参加が難しい場面が見られます。	発達の特長や感覚の特長の個人差により、特定の音量・音質・楽器の音に対して過敏に反応する児童がいます。	事前に保護者とのアセスメントを丁寧に行い、音量調整等の参加方法の工夫を行う必要性があります。
2	必要な教材・楽器・環境整備について、継続的な見直しや改善が必要です。	学習内容や指導方法の変化に教材・楽器が十分対応できていないため、環境整備(音響・保管・安全面など)にばらつきがでてしまう。	定期的な振り返りを行い、教材・楽器の選定や環境調整について計画的に見直ししていく必要があります。
3			